



Keidanren Women's Executive Network

Leadership
Mentor
Program社会インフラ整備を担う
女性の活躍を
トップダウンで推進審議委員会副議長・清水建設会長
宮本 洋一

経団連女性エグゼクティブ・ネットワーク

第8回リーダーシップ・メンター・プログラム

2017年12月19日 東京・大手町 経団連会館

建設業について

建設業は、現代・未来の豊かさを守る社会基盤をつくり、維持し、更新していく役割を担っている。社会基盤の整備により、生活の利便性が向上し、災害時の備えとなる。

建設業の特色の一つは、請負が基本であること。形がない時に契約し、形にして引き渡す。建物は生活を送るためにあり、生活者の安全・安心やニーズを踏まえて作られねばならない。この逸品(当社では"逸品"を目指し「一品」をこう呼ぶ)を引き渡すまで建設会社が責任を持つ。

二つ目は、長年男性社会であり女性活躍が難しかったこと。かつては3K(キツイ、汚い、危険)と呼ばれたが、女性活躍の取り組みを進め、いまは新3K(希望、休暇、給料)をスローガンとしている。清水建設では、2008年から女性の総合職採用を本格始動し、昨年は新入社員の4分の1が女性になった。両立支援や男性の意識改革も進めている。

三つ目は、建設業は分類上は非製造業であるが、その本質はものづくり産業であること。清水建設創業当時の"出入り大工"の精神を大切に、一貫したアフターサービスといった顧客からの信頼を基盤としている。

経営者として取り組んできたこと

当社は、道徳と商売の合一を旨とする

澁澤栄一という言葉「論語と算盤」を経営の基本理念に据えてきた。そして、新しいコーポレートメッセージとして「子どもたちに誇れるしごとを。」を掲げている。今日良い仕事をして、将来しっかり評価されるようなものをつくっていかう、ということである。その中で、ものづくりの原点に回帰し、机上だけでなく現場に出る時間を増やす「ときづくり」運動を進めている。また、ものづくりを核とした未来への挑戦として、先端技術による未来都市や海洋資源の活用をはじめとする新事業にも取り組んでいる。

リーダーとして

建設業は「人財」産業であり、リーダーは従業員とその家族を守らなければならない。ひとりとして不要な「人財」はいない。従業員が働く意欲を持つことが一番大切で、その環境づくりが経営者の仕事である。従業員との対話も意識し、社長懇話会では、全支店を回って幅広い年代の従業員と対話している。その際の女性の声から子の看護休暇を拡充するなど従業員のニーズに沿った制度整備も必要である。

トップにはバックアップはない。全ての責任があり、使命と覚悟が必要となる。一方で、リーダーひとりでは全ては出来ない。任せながらも、任せっぱなしにはしないということが重要である。

いまや、企業は社会と共生していく時代である。社会の一員として経済の活性化に寄与しながら、社会的貢献を行っていく必要がある。

Mentor Profile

宮本 洋一氏

(一社)日本経済団体連合会
審議委員会副議長

清水建設(株) 代表取締役会長

東京大学工学部建築学科卒業後、1971年清水建設(株)に入社。2003年執行役員、2006年専務執行役員営業担当等を経て、2007年に社長就任。2016年より会長(現任)。日本建設業連合会副会長、土木本部長、中央建設業審議会委員等を務める。経団連では、2016年6月に審議委員会副議長に就任(現任)し、都市・住宅政策委員長、日本-イラン経済委員長を務める。

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設